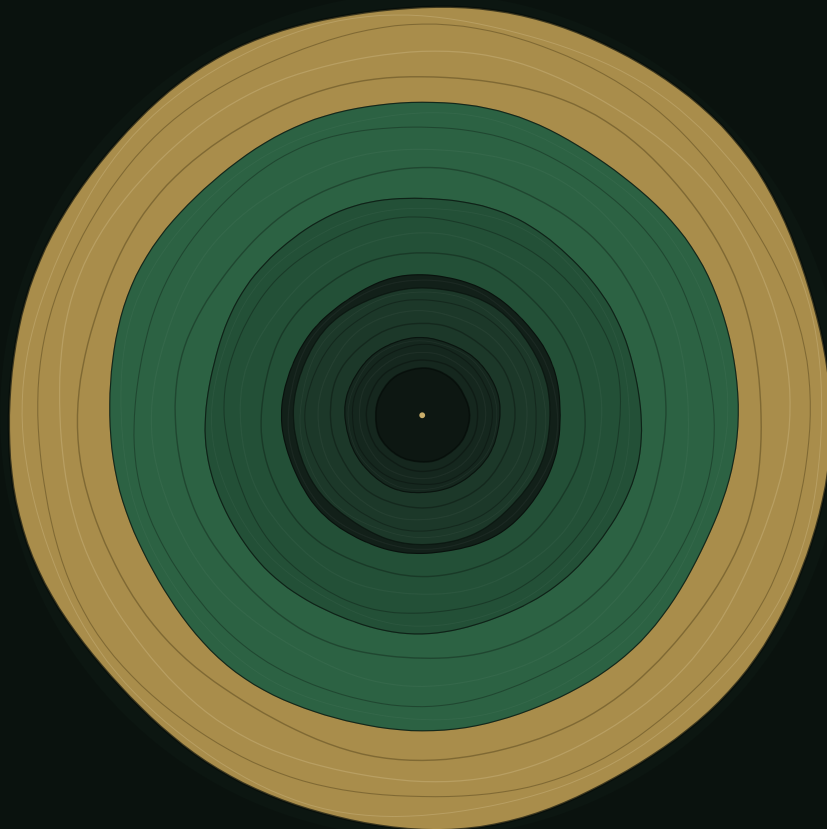




再生の年輪 — 観測した再生系企業への資本の厚み（二〇二一 → 二〇二六上半期）

再生に、資本がめぐりはじめた。

2026年上半期、資本はどの「再生」に向かったのか。566件の観測から届ける、人と自然の再生の目録。創刊号。

566件

観測した資金調達

59件

再生に向かった案件（10.4%）

191.9億円

判明金額の合計

7/29

再生系IPO 2社が同日上場

創刊にあたって

ランキングでも、格付けでもなく。

本誌は、ランキングでも格付けでもありません。

MQRIは、国内のスタートアップの資金調達を継続的に記録しつづけています。本誌は、その記録から2026年上半期の分を切り出し、「人と自然の再生」というレンズで読み直したものです。

はじめに、ひとつだけ断っておきます。ここに並ぶ数字は、わたしたちが観測できた範囲のものです。網羅ではありません。何を「再生」と数えたかは、わたしたちの基準です（その基準は p.05 に開いてあります）。

そのうえでわたしたちは、「資本はどの再生に向かっているか」という問いと、誰がそこに張ったのか（投資家）、そして一社一社が何を再生しているのかという物語で、この半年を記録します。

わたしたちは、再生を「遠い理念」ではなく「観測できる風景」として扱います。読み終えたあと、気になった一社に「応援したい」「話を聞いてみたい」と思っただけいたら、それがこの目録の成功です。目録は、出会いのための地図です。

REGEN Report 編集長 松石 圭介

2026年7月 創刊号に寄せて

目次

1	全体観測 — 566件のなかの、59件。	04
2	手法 — この目録はどう数えたか	05
3	REGENマップ — 7つの川と、その主役たち	06
4	注目の10社 — 何を再生しているか	08
5	投資家の風景 — 誰が再生に張ったのか	10
6	上場 — 再生は、出口まで届いた	11
7	海外 — 国内191億、海外は8,000億。／海外トピックス	12
8	測る言葉 — 再生が観測可能になった夏	14
付	全目録 — 再生に向かった59件のすべて	15

この半年の、3つの発見。

1 再生は、出口まで届いた。

上半期に観測した資金調達566件のうち、人と自然の再生に向かうものは59件（10.4%）・判明金額約192億円。まだ10件に1件の細い川です。しかしその川がこの7月、はじめて「出口」に届きました——再生を事業にする2社（アイ・グリッド・ソリューションズ/ビーエイブル）が、7月29日、同じ日に東証へ上場します。再生への投資が、応援だけでなく、投資として成り立ちはじめた半年でした。

2 張ったのは、再生の「当事者」だった。

海運（日本郵船）が海の再生に、重工（住友重機械）が脳の再生に、物流・商社（鴻池運輸・三谷産業）が核融合に。59件のうち事業会社の出資・提携が確認できた案件は11件。かつて「CSRの棚」にあった再生が、本業の延長として張られはじめました。同時に、地域金融・地方創生ファンドの関与が10件——お金が中央から地方へ回りはじめています。

3 再生の川は、まだ若い。

再生案件の調達額は1～5億円帯が最も厚く（判明28件の42.9%）、50億円を超える案件はゼロ（全体では5.0%存在）。市場全体が大型化するなかで、再生の川はまだ小さな流れの集まりです。カテゴリの偏りも大きい——気候・エネルギー20件に対し、循環は2件、人的資本は1件。この偏りそのものが、いまの日本の再生の姿——わたしたちにはそう見えました。ただし人的資本の1件は、HR領域のスタートアップ自体は多いことを思えば、わたしたちの数え方が狭かった可能性が高い（→p.05／次号までに見直します）。

観測母数	再生案件	海外の再生（同期間）
566件	59件	\$5.31_B
2026年1～6月・リリース日基準	10.4% — 判明28件・191.9億円	約8,000億円・32件（判明分）

566件のなかの、59件。

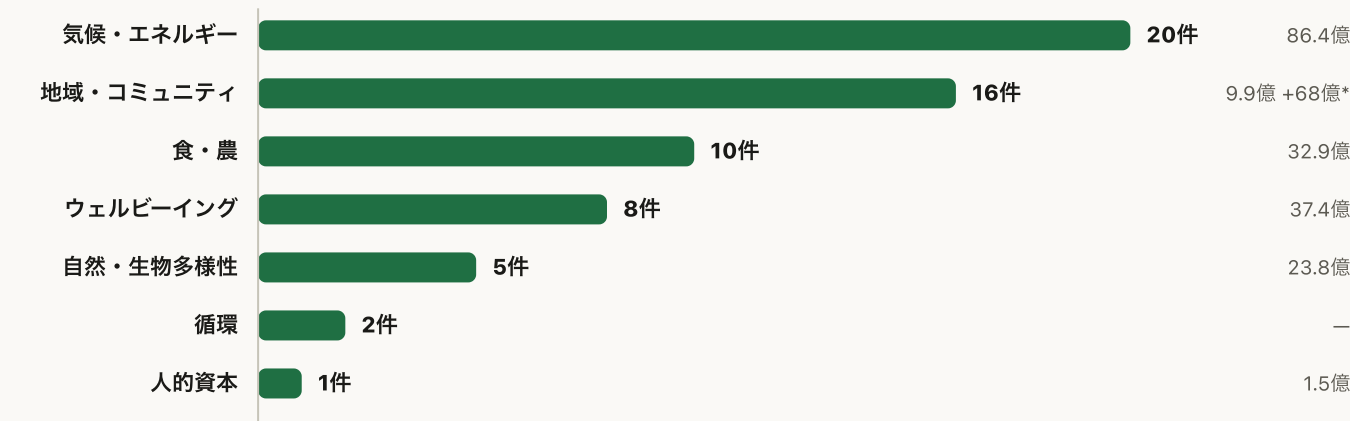
2026年1月～6月に観測した資金調達の全量と、そのうち「人と自然の再生」に向けた流れ

観測した資金調達 566 件 2026年上半期・リリース日基準	再生に向けた案件 59 件 全体の10.4% — 10件に1件	判明金額の合計 191.9 億円 判明28件・未判明31件（実額はこれ以上）
--	--	---

注：母数566件からファンド組成・大企業の社債/ローン・重複を除いた事業会社の調達は531件（金額判明299件・総額4,195億円・中央値5.7億円）。REGEN59件のうちGOOD SOIL FUND（68億円組成）はファンド組成のため金額集計の別枠とした。→ 手法はp.05。

図1 7つの川 — カテゴリ別の件数と判明金額

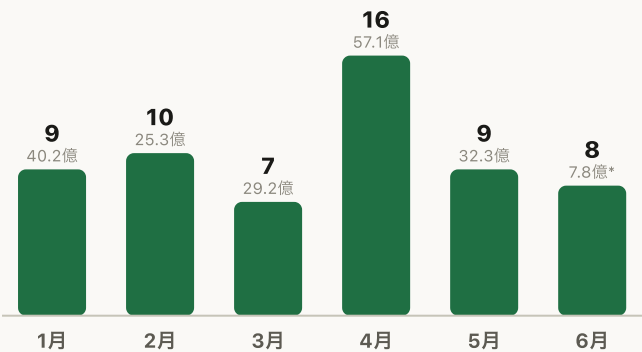
再生59件の内訳（重複分類あり）。バーは件数、右端の数字は判明金額の合計。



循環（2件）は金額非公表。GOOD SOIL FUNDの68億円は地域・コミュニティの件数に含み金額から除外。

図2 月ごとの再生の流れ

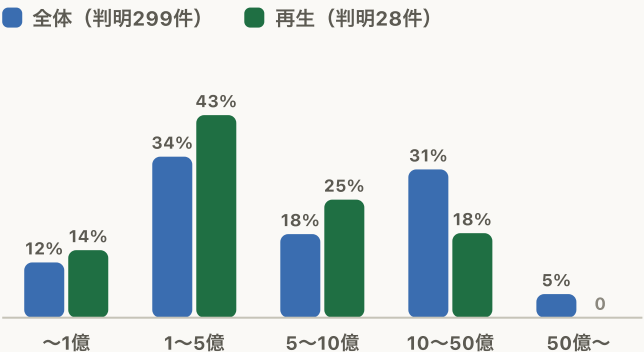
月別の再生案件数（判明金額を添字）。



6月の金額が薄いのはGOOD SOIL FUND（68億円・別枠）が同月のため。

図3 再生の調達は、小粒か

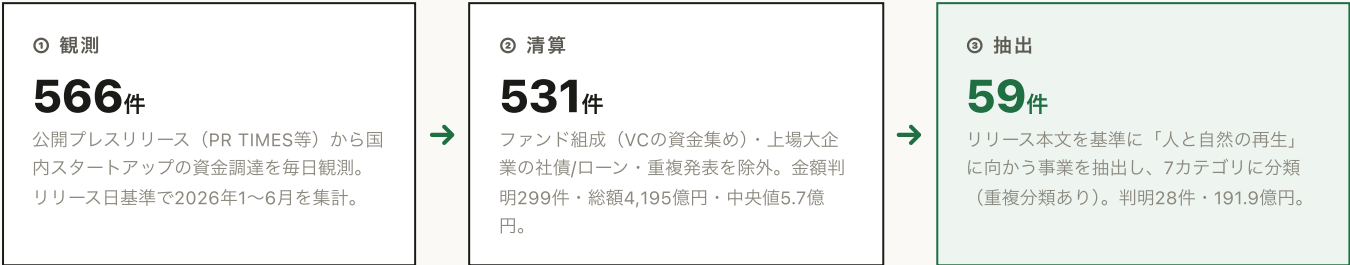
1件あたり調達額の分布 — 全体と再生の比較（各系列内の構成比）。



再生は1～5億円帯が42.9%と厚く、50億円超はゼロ。大型化する全体に対し、再生の川はまだ若い。

数え方を、先に開く。

目録の信頼は、選び方と数え方の公開でつくられると考えています



金額はすべて公表値のみ（推計しない）。未判明31件があるため、実額は191.9億円より大きい。相場を語るときは平均でなく中央値を使う（外れ値対策）。

定義 「再生」の7カテゴリ — 何を回復させる事業か

カテゴリ	含めたもの（例）	件数
■ 気候・エネルギー	再エネ・核融合・脱炭素技術・蓄電・カーボンクレジット。「減らす」から「つくり直す」までを含む。	20
■ 地域・コミュニティ	地方経済・空き家・地域文化・防災・福祉インフラ。土地に根ざした営みの回復。	16
■ 食・農	再生農業・品種開発・農家支援・食の構造転換。土と食卓のあいだの再生。	10
■ ウェルビーイング	認知症治療・介護・リハビリ・心身の健康。「人の再生」の直接領域。	8
■ 自然・生物多様性	海洋・森林・土壌・生物多様性データ。生態系そのものの回復。	5
■ 循環	リサイクル技術・循環型EC。「焼却前提」からの脱却。	2
■ 人的資本	人の活躍・成長の再現性への投資。ISO 30414が測ろうとする領域。	1

この目録の限界（正直に）

①抽出はリリース見出し・本文の判定によるため、「再生」を掲げない再生的事業を見落としている可能性があります。②金額入力率は56%——未公表の慣行が国内には根強く、実際の川はもっと太いはず。③カテゴリ分類には編集部判断が入ります（最終判定：編集長）。異論・推薦はむしろ歓迎です。この目録は完成品ではなく、観測の途中経過です。

お金は、どの再生に向かったか。

太い川から細い川まで — カテゴリごとの風景と代表的な流れ

01 気候・エネルギー

20件 | 判明86.4億円 — 一番太い川

Helical Fusion（核融合・27億円/H1国内最大級）を筆頭に、**ネクストコアテクノロジーズ**（脱炭素モータ・20.7億円）、**Tensor Energy**（再エネ蓄電運用・9.5億円）、**シェアリングエネルギー**（8.6億円・累計276億円）、**Bluefield Energy**（シードで6.6億円）。核融合から屋根の上の太陽光まで、エネルギーの再生に最も潤沢にお金が流れた。

02 地域・コミュニティ

16件 | 判明9.9億円（+GOOD SOIL FUND組成68億円）

件数は2位だが1件1件は小さい——**ボルティ**（空き家フリマ・1.5億円）、**L&F**（空き家サポート・1.1億円）、**天創堂**（地域産品・2.6億円）。一方で地域金融6行を含む**GOOD SOIL FUND**が68億円で組成（13社・150億円規模の地域開発体制）。投資対象はホテルを中心としたエリア開発で、いわゆる再生事業そのものではない。それでも本誌が記録するのは、**地域の金融機関が、地域の開発に自ら資金を置きはじめた**という事実のためだ——小さな流れの背後で、川床が広がっている。

03 食・農

10件 | 判明32.9億円

日本農業（13億円・累計57億円）が農業の構造転換を、**CULTA**（7億円）が「気候変動に負けない品種」を。適応という再生に加え、**テラファーム**（宇宙農業・1億円）のような外縁も生まれた。

04 ウェルビーイング

8件 | 判明37.4億円

サウンドウェーブイノベーション（認知症治療・26.5億円）が件数以上の存在感。**ウェルモ**（医療介護AI・6.8億円）、**EEFUL**（介護・4.1億円）。「人の再生」に、まとまったお金が動きはじめた。

05 自然・生物多様性

5件 | 判明23.8億円

Oceanic Constellations（海の可視化・20億円）と**シンク・ネイチャー**（生物多様性ビッグデータ・3.8億円）、**ForestFolks**（1000年の森林経営）。件数は少ないが、熊本宣言・SON指標（→p.14）と同じ夏に「測る自然」への投資が動いた符合は見逃せない。

06 循環

2件 | 金額非公表 — 細い川

esa（複合プラスチック再生・累計9.5億円）と**クラス**（循環型EC×地域金融）。「焼却前提社会」を疑う流れは、まだ数えるほどしかない。

07 人的資本

1件 | 判明1.5億円 — 最も細い川

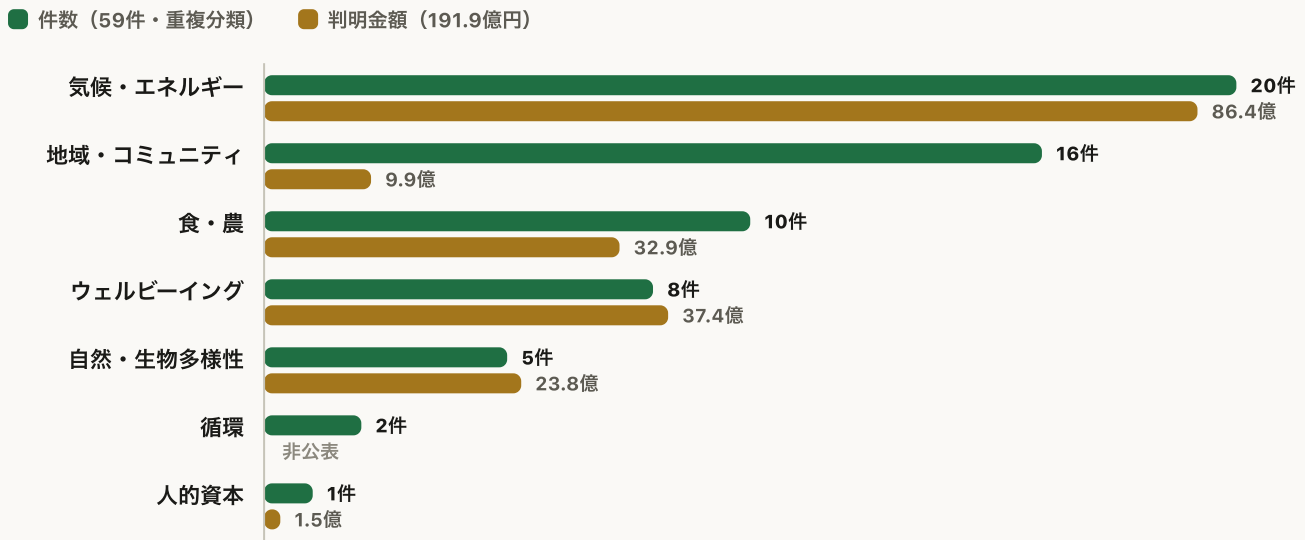
Boost Healthただ1社。人への投資を「測る」動きは制度が先行し（ISO 30414・人的資本開示）、スタートアップへの投資はこれから。**この空白は、来期以降の変化を測る基準線になる。**

偏りを、そのまま見る。

件数と金額は別の風景を映す — 2つの軸でみるカテゴリの現在地

図4 件数の川幅 × 金額の川幅

同じ7カテゴリを「件数」と「判明金額」で並べる。件数で2位の地域は、金額では細くなる（未公表が多く、1件が小さい）。



金額バーはカテゴリ内の判明分のみ（循環は非公表のためゼロ表示）。GOOD SOIL FUND68億円は組成のため除外。

読み 気候は「額」、地域は「数」。

気候・エネルギーは件数でも金額でも最大——大型の技術投資（核融合・モータ・蓄電）が額を押し上げます。対照的に地域・コミュニティは件数16件に対し判明9.9億円。1件あたりが小さく、非公表も多い。地域の再生は「大きな一撃」でなく「小さな多数」で進んでいる——これは弱さではなく、この川の性格だというのが、わたしたちの見方です。

読み 中央値5.7億円の下で。

全体の調達中央値は5.7億円（清算後531件・判明299件）。再生28件のうちこの中央値に届かない案件は17件（60.7%）です。再生の多くは、市場の「ふつうサイズ」よりさらに小さく始まっている。だからこそ、次章の「誰が張ったか」——最初の小さな一歩に誰が寄り添ったか——が大切になります。

編集長の目で選ぶ、10社。

組織の審査でも、指標による格付けでもない。金額の大小ではなく「何を再生しているのかが一行で言えるか」で選び、7カテゴリを全部通した（選定：編集長・松石圭介）

01 Helical Fusion

気候・エネルギー

27.0億円 累計98億円

ヘリカル型核融合炉——エネルギーの再生の最深部。シリーズB 1stクローズはH1国内最大級。最終実証装置「Helix HARUKA」の建設へ。

張った人：鴻池運輸・三谷産業など事業会社が新規引受。東京都ゼロエミッション事業の補助（最大10億円）も。

◆400億円規模の実証装置に事業会社が名を連ねる。再生の"最も遠い未来"に、いまのお金が届いている。

02 サウンドウェーブイノベーション

ウェルビーイング

26.5億円 シリーズC

超音波（LIPUS）で早期アルツハイマー病を非侵襲治療する「LIPUS-Brain」。東北大発。厚労省「先駆的医療機器」指定。検証的治験を2026年末までに完遂へ。

張った人：住友重機械工業（資本業務提携）、iGlobe Partnersほか。

◆認知症を「治す」に重工が本気で張る。人の脳の再生に26.5億円。

03 Oceanic Constellations

自然・海

20.0億円 シリーズB1

無人海上艇を海域に多数配置して海を可視化する「海の衛星群®」。鎌倉発の海洋モニタリング。

張った人：日本郵船が出資。リードはグロービス・キャピタル+JAFCO。

◆海運の当事者が、海の再生に張った。守る対象だった海が、投資対象になる。

04 ForestFolks

自然・森

非開示 シード

森林アセットマネジメント。「1000年先も継続できる森林経営」を掲げ、次世代森林管理システム「Forester Earth」を開発。

張った人：三菱UFJキャピタル、スパークル、talikiほか。

◆「1000年」という時間軸の事業に、いまの金融が資金を出す。時間スケールの物語性が随一。

05 CULTA

食・農

7.0億円 プレシリーズA

ゲノム編集に頼らない独自AI品種開発。「気候変動に負けない品種」——イチゴ新品種を従来10年→2年で。垂直統合で東南アジアへ。

張った人：Archetype Ventures、UntroD Capital Japan（リード）、ニッセイ・キャピタルほか。

◆気候変動を"止める"でなく"負けない"へ。適応という再生。

06 SHONAI 地域・経済

9.9億円

山形県庄内。農業・観光・企業変革のグループ会社で「地方経済ごと」再生する構え。田んぼに浮かぶホテル「スイデンテラス」、児童施設「キッズドームソライ」。

張った人：ユナイテッド（5億円リード・今後5年で約10億円投資予定）、中部電力ほか。

◆一社でなく地域まるごとをコングロマリットで再生する、地方発の成長モデル。

07 haccoba 地域・文化

非開示

ジャンルの垣根を越えたクラフトサケ醸造。福島から東京・内神田へ醸造所を展開（三菱地所と連携）。

張った人：スパークル×東邦銀行グループ「TOHO Next Stage Fund」＋東邦銀行・あぶくま信用金庫の協調融資。

◆文化も再生の対象になる。地方の酒づくりが、地域金融と組んで都心に打って出る。

08 L&F 地域・住まい

1.1億円 シリーズA

空き家管理ネットワーク「日本空き家サポート」。管理から利活用・再生まで。超高齢社会の「余った家」を資源に変える。

張った人：「地域とヒトと未来」CJS2ファンド、九州オープンイノベーション2号ほか。

◆一番身近な風景——空き家——の再生。7月のセカンドクローズで額が判明した、観測が続く一社。

09 esa 循環

非開示 累計9.5億円

異種素材が混在する複合プラスチックを再生ペレットに変換する独自技術「esa method」。「焼却前提社会」からの脱却。

張った人：三菱UFJモルガン・スタンレー証券から出資。

◆「燃やす前提」を疑う。細い川（循環2件）の代表として、あえてここに。

10 Boost Health 人的資本

1.5億円 累計2.5億円

心理学+AI+コーチングのタレントサクセス「BOOST」。人的資本経営の"属人化"を解消し、人の活躍に再現性を。

張った人：ジェネシア・ベンチャーズ、WPowerファンドほか。

◆人的資本カテゴリ唯一の1社。「人を大事に」でなく「活躍の再現性を実装」へ。最も細い川の、最初の一滴。

選から漏れた川にも主役はいます——生物多様性ビッグデータのシンク・ネイチャー（測る自然、→p.14）、宇宙農業のテラファーム、日豪Blue Economyの北三陸ファクトリー。全59件は巻末の目録（p.15-16）に。

張ったのは、当事者だった。

このレポートで一番お伝えしたい風景



件数は公開リリースの記載に基づく最少値（記載のない出資者は数えていない）。

風景1 本業の延長として張る — 他人事が、自分事になった

誰が	どこへ	なぜ象徴的か
海運 — 日本郵船	Oceanic（海の可視化）	航路の下の海そのものに張った
重工 — 住友重機械工業	サウンドウェーブ（認知症治療）	機械の会社が、人の脳の再生に
物流・商社 — 鴻池運輸・三谷産業	Helical Fusion（核融合）	エネルギーの使い手が、つくり手の未来に
重工 — IHI	ビーエイブル（廃炉・再エネ）	上場前年に出資（2025年9月）→p.11
電力 — J-POWER／中部電力	日本GX／SHONAI	電力が炭素経済圏と地方経済に
建設・不動産 — 戸田建設／サンケイビル	ハイレゾ／クリーンプラネット	建てる側がエネルギーの次を仕込む

風景2 お金が、中央から地方へ回りはじめた

ユナイテッドが庄内のSHONAIに5億円をリード。東邦銀行グループがhaccobaに、常陽銀行がクラスに、三島信用金庫がKukulcanに（同信金初のスタートアップ投資）、七十七銀行がSDGs私募債で全力優に、多摩信金がKAERUに。ほうわ（大分）・札幌・おおさか——地方創生ファンドの名が毎月のように目録に現れます。再生の資金は、東京だけを回るものではなくなってきています。

かつて再生は、本業と切り離された「CSRの棚」にありました。いま、事業会社は本業の延長として再生に張り、地域金融は足元の川に資金を流しはじめた。2026年上半期、再生に張ったのは「再生の当事者」でした。REGENは特別な棚ではなく、本業の再定義になりつつあります。

7月29日、同じ日に、2社。

再生を事業にするスタートアップが、別々の市場へ同日上場する

603A | 東証グロース

アイ・グリッド・ソリューションズ

屋根の上の太陽光（オンサイトソーラー）を束ね、分散型エネルギー資源を統合するプラットフォーム+エナジートレーディング。つくるだけでなく、回す——再生可能エネルギーを「効率的に循環させる」設計思想。

想定時価総額 247.1億円

主幹事 野村證券

公開価格 770円

初値 953円 (+23.8%)

604A | 東証スタンダード

ビーエイブル

本社は福島県大熊町。事業の9割が福島第一の廃炉・原発メンテナンス工事+木質バイオマス・風力メンテ。1・2号機排気筒の遠隔ロボット解体で内閣総理大臣賞。壊れた場所から、事業を立て直す。

想定時価総額 67.2億円

資本参加 IHI（2025年9月出資）

公開価格 700円

初値 1,016円 (+45.1%)

片や首都圏の屋根の上、片や事故の跡地。片やグロース、片やスタンダード。対照的な2社が同じ日に市場へ出る——再生への投資が、応援だけでなく、投資として成り立ちはじめたことを、これほど象徴する一日はありません。

結果は、2社とも初値が公開価格を上回りました（+23.8%／+45.1%）。市場がこの2社をどう迎えたかの、最初の数字です。

誤解のないように書いておくと、上場そのものが、再生のゴールではありません。この2社は、めぐりはじめた資本が「出口」まで一周した最初の証拠です。10件に1件の細い川が、はじめて海まで届いた——その最初の記録として、この日付を目録に残します。

出典：各社上場承認情報・会社発表（アイ・グリッド 2026-06-25発表）・ipokiso.com。初値・騰落率は2026年7月29日の取引成立後の確定値（2026-07-31時点・複数媒体で確認）。株価はその後変動する。

国内191億、海外は8,000億。

同じ半年・同じ「再生」で、スケールも質も違う

図5 日本と海外の再生マネー（2026年上半期・判明分）



海外は当方の海外観測（2026H1・587件中32件を再生系と判定・判明21件）。\$1=150円換算の概算。

質の差 海外の主役は、核融合・原子力・地熱。

Fervo Energy（地熱）はIPOで最大13億ドル、X-energy（原子力）は10億ドル、Inertia（核融合）は4.5億ドル——海外の再生マネーはエネルギーの基盤そのものを賭ける対象にしています。国内最大のHelical Fusion 27億円と比べると、1件で桁が2つ違う。

対比 「暮らしにめぐる」日本、「原子炉に集まる」海外。

日本の再生マネーは暮らしと地域に根ざし（空き家・地方経済・介護・農業）、海外はエネルギー基盤に集中する。この違いは優劣ではなく、それぞれの国の「再生への切実さの在りか」の違いだとわたしたちは考えます。日本の切実さは、足元の風景の中にある。

海外の大型再生案件（H1）	領域	調達額	一言
Fervo Energy	地熱	～\$1.3B	IPOで最大規模——地熱が主流市場へ
X-energy	原子力（SMR）	\$1.0B	データセンター需要を軸にIPOで10億ドル
Inertia	核融合	\$450M	次世代原子力への資金がかつてなく活発に
Blue Energy	原子力×造船	\$380M	造船所に送電網規模の原子炉を建設
Lunar Energy	家庭用蓄電	\$232M	電力網を支える家庭のバッテリー
Focused Energy	レーザー核融合	\$240M	シリーズAでこの規模——熱の高さの証左

見立て — 40倍は、遅れではなく、賭けている場所の違い

海外の資本がエネルギーの基盤に集中しているということは、裏を返せば、暮らし・地域・文化の再生に本気で張っている国は、ほとんどないということでもあります。日本の再生マネーが小さいのは事実です。でも向かっている先は、世界がまだ手をつけていない場所でした。この国内と海外の比は、次号（2026年下半期）でも同じ数え方で出します。40倍が何倍になるのか——それを追いかけることが、この目録の仕事です。

米中欧だけでなく、インド（Varaha・SolarSquare）・アフリカ（Spiro）・東南アジア（SmartSolar・Amplicity）にも再生マネーは広がる——次ページで編集部が拾ったトピックスを。

海外は、「払い方」から発明している。

調達の目録の外で動いた、再生のしくみと現場 — 編集部セクション

a 供給網が、土に払いはじめた 米国・食

General Mills・ADM・Walmartが米中西部の小麦4万エーカーを再生農業へ移行する共同プログラムを発表（7月）。続けて製パン素材大手Puratosの米国法人が自社小麦粉の約3割を再生農業調達に組み込むと発表。**1社のCSRでなく、供給網ぐるみで「土の再生」に対価を払う動き**が、複数社で同時多発している。パンやお菓子の原価の中に、土の再生が静かに入りはじめた。

b 「買い手クラブ」 — 保険会社と取引先7社が、50年の再野生化に共同出資 英国・自然

保険会社QBEと、その保険金請求サプライチェーンの7社が英国初の「リワイルディング買い手クラブ」を結成。Nattergal社の再野生化農地Boothby Wildlandで**50年スパン**の自然再生とクレジット創出に資金を出す。取引の束で自然に払う——「面で払う」枠組みが、食・農に続いて保険にも現れた。

c 週4日制の大規模実証 — バーンアウト71%減、売上は微増 6カ国・人の再生

給与を下げない週4日制の国際実証（6カ国141社・約2,900人・6カ月）で、バーンアウトの減少71%・離職57%減、企業売上は平均+1.4%で維持。約9割の企業が継続を選んだ。成功の鍵は「**1日削る前に平均8週間かけた業務の再設計**」。余白は削って生まれるのではなく、設計して生まれる——人的資本の再生の、最も説得力ある一次データ。

d 宣言1,200社、実取引はわずか — 生物多様性クレジットの現在地 世界・自然

ネイチャーポジティブを宣言した企業は世界1,200社を超える一方、自主的生物多様性クレジットの実取引はごく少額にとどまる。**言葉が実需を先回りしている**——この距離の縮まり方こそ、来期以降の観測ポイントになる。

e ロケットエンジンを、地熱へ 米国・気候

SpaceX出身のエンジニアたちがロケットエンジン技術を地熱発電所に転用するCritical Energyが\$22Mを調達。アフリカ全土の電動モビリティ網を築くSpiro（\$215M）、船体清掃を2週間から10時間に縮める中国の海洋ロボットSEAH、生物多様性スタートアップ支援に特化した投資会社Superorganism（\$25M）——**再生の周縁は、思いがけない技術の転用から広がっている**。

出典：各社発表・BusinessGreen・Nature Human Behaviour掲載研究・Climate Policy Initiative・報道各社（一次情報に遡って確認）。トピック選定：編集部。

願いが、観測できる風景に変わる。

この半年、自然の側にも人の側にも「再生を測る言葉」が出そろった

2026年 第1四半期

TNFD採用企業が世界730社を超える

自然関連財務情報開示（TNFD）に正式コミットした企業は時価総額約9兆ドル規模に。ISSBはTNFDを土台にした自然報告の世界標準づくりを進め、COP17（2026年10月）へ向け草案を準備中。「自然を測って開示する」が、任意から標準へ動いている。

2026年 7月8日

日経「ウェルビーイング経営ver.1」公開

人の側の「再生を測る言葉」。ウェルビーイング経営の実践枠組みが公開され、人的資本の開示（ISO 30414）と合わせて「人への投資」を評価する物差しが揃いはじめた。本目録の最も細い川（人的資本・1件）が来期どう変わるかの、基準線になる。

2026年 7月14-15日

グローバル・ネイチャーポジティブ・サミット2026（熊本）

自然の回復を測る「SON指標（State of Nature）」の最終版と、生態系への悪影響の回避・劣化からの回復を全ての企業に求める「熊本宣言」がまとまった。国内では生物多様性ビッグデータのシンク・ネイチャー（4月・3.8億円調達）がこの文脈のど真ん中にいる。

2026年 7月29日

再生系スタートアップ2社が同日上場（→p.11）

測る言葉が揃った同じ夏に、再生は資本市場の「出口」まで届いた。言葉と、お金と、市場。三つが同じ季節に重なったことを、この目録は記録しておく。

再生が、願いから、観測できる風景に変わっていく。その最初の半年の記録が、このレポートです。測れるようになったものは、投資の対象になり、事業の言葉になり、いずれ日常の風景になる——わたしたちはその続きを観測していきます。

再生に、資本がめぐりはじめた。ただ、めぐりはじめたのは金融資本だけではありません。人が動き、知が集まり、地域の信頼が育ち、そこに感情が乗る。お金は、そのいちばん見えやすい形にすぎません。再生は、遠い理念ではなく、いま、あなたのすぐ近くで起きている風景です。

再生に向かった59件、そのすべて。

2026年1月～4月（30件） — これがこの目録の本体です

月	社名	カテゴリ	億円	何の再生か
1月	カーボンプライオキャプチャー	気候	0.5	CO2回収。日本政策金融公庫の資本性ローン
1月	湯治ぐらし	地域	—	湯治文化を世界のライフスタイルへ。ほうわ創業F
1月	クラフトマンシップ	地域	—	「眠っている着物ゼロに」KIMONO CLOSET
1月	Synflux	気候	5.2	衣服の廃棄削減設計。脱炭素化支援機構が出資
1月	EVERSTEEL	気候	4.6	鉄鋼の脱炭素AI検査。三井物産・Coreline
1月	Kukulcan	食・農	—	農業の未来をアップデート。プレシリーズA
1月	Oceanic Constellations	自然	20.0	海の衛星群®。日本郵船・グロービス・JAFCO
1月	ラテラ	自然	—	無菌人工土壌。京都大学イノベーションキャピタル
1月	SHONAI	地域・食農	9.9	庄内の地方経済ごと再生。ユナイテッド5億リード
2月	L&F	地域	1.1	日本空き家サポート。シリーズA（7月に総額判明）
2月	北三陸ファクトリー	気候・自然	—	日豪Blue Economy。ミツウロコGが引受
2月	ディッシュウィル	食・農	2.0	アグリ・フードテック。累計約2億円
2月	日本農業	食・農	13.0	農業の構造転換。累計57億円
2月	PIAZZA	地域	2.6	地域共創の都市運営モデル
2月	Bluefield Energy	気候	6.6	エネルギー流通の再構築。シードで6.6億
2月	デジリハ	ウェル	—	リハビリDX。導入270施設突破
2月	esa	循環	—	複合プラ再生ベレット。三菱UFJMS証券が出資
2月	テラスマイル	食・農	—	宮崎発アグリテック。札幌イノベーションF
2月	クラシテク	ウェル	—	訪問看護AI。米Rice Capital
3月	ビーブリッド	ウェル	—	介護DX伴走支援。プラス・エレコム等と提携
3月	日本GXグループ	気候	—	個人参加型の炭素経済圏。J-POWERが出資
3月	ネクストコアテクノロジーズ	気候	20.7	脱炭素の次世代高効率モータ
3月	クラス	循環・地域	—	循環型エコシステム。常陽銀行と連携
3月	クリーンブラネット	気候	—	新水素エネルギー。サンケイビルが出資
3月	Boost Health	人的資本	1.5	人的資本経営の属人化解消
3月	CULTA	食・農	7.0	気候変動に負けない品種開発
4月	ビームフォーフュージョン	気候	0.5	核融合の加熱装置の心臓部
4月	全力優	地域	—	仙台発・地方創生。七十七銀行77SDGs私募債
4月	シンク・ネイチャー	自然	3.8	生物多様性ビッグデータでネイチャーポジティブ
4月	Tensor Energy	気候	9.5	再エネと蓄電所の運用PF。累計17億円

月	社名	カテゴリ	億円	何の再生か
4月	EEFULホールディングス	ウェル	4.1	介護業界の構造転換。M&Aを加速
4月	Konnect-link	地域	0.8	「日本創生」を掲げるプレシリーズA
4月	ForestFolks	自然	—	1000年先も継続できる森林経営
4月	ポルティ	地域	1.5	空き家フリマ「ポルティ空き家バンク」
4月	シェアリングエネルギー	気候	8.6	シェアでんき。累計276.5億円
4月	ULUCUS PARK	ウェル	—	12歳までの身体づくり。ウェルビーイング教育
4月	アニバーサリーコンシェル	地域	1.3	地域防災DX「デジ町」
4月	ハイレゾ	気候	—	洋上風力×AIデータセンター。戸田建設
4月	Nestia	地域	—	空き家再生のJV（Integrity×クラダシ）
4月	KAERU	地域	—	福祉型キャッシュレス。多摩信金と提携
4月	日本農業	食・農	—	個人投資家向けファンドでの調達開始
4月	Helical Fusion	気候	27.0	シリーズB 1st。H1国内最大級・累計98億円
5月	天創堂	地域	2.6	地域産品1万点超を世界へ
5月	クラダシ	気候	2.9	蓄電所プロジェクトファイナンス。リコーリース
5月	haccoba	地域	—	クラフトサケ×地域文化。東邦銀行G・スパークル
5月	エクセルギー・パワー・システムズ	気候	—	超高速充放電のエクセルギー電池®
5月	SECAI MARCHE	食・農	—	農家支援と供給基盤強化。welzoと連携
5月	Q.ENESTホールディングス	気候	—	低圧太陽光80MW規模の組成・調達
5月	サウンドウェーブイノベーション	ウェル	26.5	認知症治療機器の検証的試験完遂へ。シリーズC
5月	AZNICS	気候	0.3	脱炭素化支援機構が出資
5月	ESREE Energy	気候	—	砂利蓄熱で産業用熱のグリーン化。広島・竹原
6月	Helical Fusion	気候	—	個人投資家向け個別銘柄ファンド第3弾
6月	テラファーム	食・農	1.0	宇宙農業の実現へ。シード
6月	ウェルモ	ウェル	6.8	医療介護AI・DX。累計55.6億円
6月	ケアリンク	ウェル	—	介護・福祉特化のスポットワーク
6月	Kukulcan	食・農・地域	—	三島信用金庫G初のスタートアップ投資
6月	そらとぶタクシー	地域	—	おおさか地域活性化ファンド第2号投資先
6月	GOOD SOIL FUND	地域	68.0※	ファンド組成（別枠）。ホテル中心のエリア開発。地域金融6行含む13社・150億円規模
6月	カーボンリンク	気候	—	カーボンクレジット売買仲介。シリーズA 1st

※GOOD SOIL FUNDはファンド組成のため、本文の金額集計（191.9億円）には含めていない。各行の出典（プレスリリースURL）は、note版の候補リストに全件掲載。

資本が再生に向かったもの

五十九の贈与から

家	森	湯	農	町	熱	鉄	土	空	海	電	陽
L&F 空き家の再流通	ForestFolks 森林の価値化	湯治ぐらし 湯治文化の再生	日本農業 農産物の再設計	SHONAI 地方経済の再興	クリーンプラネット 新水素エネルギー	EVERSTEEL 鉄鋼の脱炭素	ラテラ 無菌人工土壌	カーボנקライオキャプチャー 大気からの炭素回収	Oceanic Constellations 海洋の再生	Bluefield Energy エネルギー流通の再構築	Helical Fusion フュージョンエネルギー
一億一千万円	非開示	非開示	十三億円	九億九千万円	非開示	四億六千万円	非開示	五千万円	二十億円	六億六千万円	二十七億円

順位はつけない。これは、目録である。

金額の大小は贈与の大小ではない。ここに載るのは「なにが再生されたか」の記録。

非開示は企業の判断を尊重してそのまま記す。

この目録の使い方。

目録は、出会いのための地図です

気になった一社があれば、その会社のプレスリリースを開いてみてください。多くは出資・協業・採用の入口を持っています。応援の仕方は、お金だけではありません。紹介も、発信も、使ってみることも、立派な再生への参加です。

再生は、遠い理念ではなく、いま、あなたのすぐ近くで起きている風景です。

手法と出典（要約）

観測対象：公開プレスリリース（PR TIMES等）に基づく国内スタートアップの資金調達（2026年1月1日～6月30日・リリース日基準・566件）。清算：ファンド組成・上場大企業の社債/ローン・重複を除外（531件）。抽出：リリース本文に基づき「人と自然の再生」領域59件を7カテゴリに分類（重複分類あり）。金額：公表値のみを集計し推計しない（判明28件・191.9億円。GOOD SOIL FUND組成68億円は別枠）。相場表現は平均でなく中央値。海外：当方の海外観測587件から32件を再生系と判定（判明21件・約53億ドル）。個別の出典URLは巻末目録の各行に対応するプレスリリース、およびnote版に全件掲載。誤りのご指摘・掲載企業からの訂正依頼はいつでも歓迎します。

校了後の観測（2026年7月31日）：締めあとの照合で、再生系として新たに4件を確認した（うち金額判明2件・約91億円）。本文と目録の数字には含めていない。Web版の目録と次号に反映する。観測は、つづく。

奥付

発行 MQRI (mqri.or.jp)

編集長 松石 圭介

編集 REGEN Report 編集部

発行日 2026年7月（2026年上半期号・創刊号）



REGEN REPORT

published by MQRI

本レポートは無料で配布しています。

引用の際は「REGEN Report 2026上半期（MQRI）」とご記載ください。